

Project	地域協働専攻 地域環境科学グループ
C04	キャンパスを中心とした地域の環境および景観の向上
メンバー	<p>[学生] 今井 航・奥崎 遥翔・小野寺 悠・平 泰成 林 明日香・馬場 美智・藤川 友希・村上 雅迪</p> <p>[担当教員] 三上 修</p>

### 【背景】

函館校周辺ではアメリカシロヒトリ(以下「アメシロ」)が大量発生し、次のような問題が生じていた。

- ・キャンパスの樹木が食害されて景観が悪化する。
- ・大学の壁面に大量の幼虫が這い、学生および職員が不快な思いをする。
- ・大学内で発生した害虫が、街に広がり被害を及ぼす恐れがある。

このアメシロは、世界各地で害虫として問題になっており、日本においても侵略的外来種ワースト 100 に選ばれている。

### 【目的】

アメシロの発生を抑えるために、大学構内の樹木に「こも巻き」をして幼虫を駆除し、また成虫を捕食する鳥を誘致するために巣箱を設置した。

### 【概要】

以下の 3 つの活動をした。

- ・アメシロの基本情報の調査
- ・こも巻きによるアメシロの駆除
- ・アメシロの成虫を捕らえる野鳥を増やすため巣箱の設置

### 【プロセスと成果】

4 - 6 月: 計画書を作成し、また「生息場所」「駆除方法」「被害の事例」などの情報収集に取り組んだ。集めた情報をまとめ、中間発表会で発表した。

7 - 8 月: 大学構内の木に 32 枚のこもを巻き、こもに入った 898 匹の幼虫をこもごと回収し駆除した。仮にこれらの幼虫が成長すれば、秋に数万匹の幼虫を産みだす親世代になるので、それだけの幼虫による食害を事前に防いだことになる。

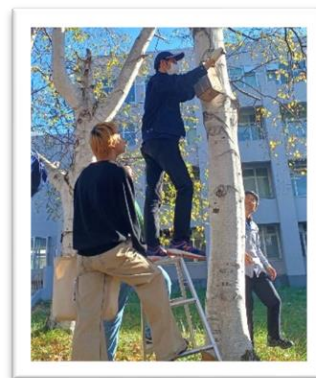
9 月以降: 同様に秋に発生するアメシロを駆除するために、大学構内の木に 30 枚のこもを巻き、171 匹を駆除した。また来年、羽化した成虫を食べてくれる野鳥を誘致するために、巣箱を設置した。



木にこもを巻く様子



こもに入ったアメシロの幼虫



巣箱の設置

## 【総括と反省・今後の課題】

### 前期の反省

- ・4～6月 は、アメシロに関する情報を共有し合い、メンバー同士で知識を深め合う事ができた。
- ・一方で、メンバー間や先生とのコミュニケーションが取れない場面があり、進行に時間がかかった。
- ・発表会では、分担した業務にそれぞれが徹し、アメシロの歴史や駆除法などを適切に伝えることができた。発表後「初めて知った」という声があり、多くの方に知って頂けたと考えている。

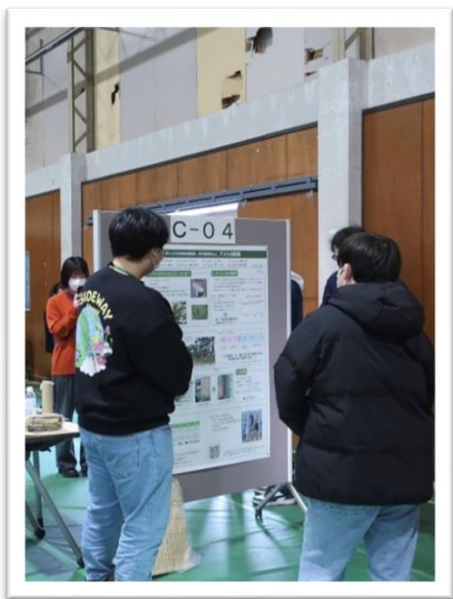
### 後期の反省

- ・前期と比較して、こも巻きの際にはチームワークが向上し、スムーズな連携ができ手際良く行えた。
- ・追加の活動として、巣箱の設置をし、アメシロ駆除の効果を促進させる活動を行うことができた。また学内環境の改善の一環としてクリスマスの飾りも行った。
- ・発表準備のために、日程を定めて進めたが、予定通り進まずポスター作製が後ろ倒しになってしまった。
- ・発表会は、前期と異なり対面だったので、ポスター作製や発表の練習を全員で確認し合いより良い状態で発表できるように工夫した。
- ・前期に比べてメンバー間で対面で話し合う機会を多く設けたことで全員の意見を反映したポスター作製や発表原稿を作ることが出来た。

## 【地域からの評価】

ポスター発表を通して以下の様な声を頂いた

- ・アメシロが本当に嫌いなので毎年助かります
- ・一昨年よりも去年の方が毛虫の量少ないと思っていたらこのような取り組みのおかげで減っていたんだなという事を知ってとても驚きました
- ・環境科学グループならではの生物に注目した地域プロジェクトで自分の考え方をガラッと変えてもらった発表だった



発表の様子

## 【年間スケジュール】

前期	4月	・活動内容の決定
	5月	・アメシロの生態・経路・歴史、 駆除方法、被害報告について 情報収集
	6月	
	7月	・アメシロの幼虫の発生に対し、 7月末に学内にこも巻きを実施 ・前期地域プロジェクト発表会
8月	・こもを回収 ・駆除の効果を検証	
後期	9月	・アメシロの幼虫の発生に対し、 9月末から10月初旬にかけて 学内にこも巻きを実施 ・巣箱の設置
	10月	
	11月	・幼虫が入ったこもを回収
	12月	・クリスマスの飾りつけ
	1月	・後期地域プロジェクト発表会